

塘研究室現地調査報告 10

今年度の連携研究「裏磐梯湖沼の生物相および周辺植生の総合調査」は特殊な環境にある湖沼：銅沼、川上青沼、湯沼での調査を進めています。湯沼と川上青沼は4月下旬に下見を兼ねて予備調査を実施しましたが、それ以降、調査をしていませんでしたので、8月11-16日の間に3つの池で底生動物の採集を行いました。

8月11日の難波君の調査のついでに湯沼に行きました。磐梯山の登山道から外れて池に行くまでの間は背よりも高いヨシやスキが繁茂しており、足下もぬかるんでいて大変でした。池付近はシオカラトンボが多数飛び交っていましたが、相変わらずの強烈な硫黄臭と温水の中にはあまり底生動物はおらず、フタバカゲロウ、トンボ類の幼虫、コガシラミズムシ、チビミズムシの仲間、モノアラガイの仲間などが採集されたに過ぎませんでした（正確な同定はこれからです）。

8月15日に銅沼に行きました。この酸性池にはチャイロシマチビゲンゴロウやチビゲンゴロウが多数生息しており、ウスバキトンボの幼虫も1個体記録されていますが、今回はこれらに加えて、クロゲンゴロウの幼虫、クロマメゲンゴロウの仲間、ルリボシヤンマ類の幼虫が1個体ずつではありますが、採集されました。捕食者以外が生息しないこの池の中の食物網が非常に気になります（同種の共食い+種間の幼虫の食い合いなどでしょうか）。

8月16日の裏磐梯は生憎の雨でしたが、川上青沼に行きました。前回もヌカエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、フタバカゲロウ以外には何もいなかった池ですが、今回もヌカエビ、アメリカザリガニ、フタバカゲロウ、イトトンボ類の幼虫しか見つかりませんでした。この池のアメリカザリガニの密度はかなり高く、池からの流出部分、池の周りのU字溝内にも大量のアメリカザリガニが見られました。



湯沼の水温は高く、周囲は強烈な硫黄臭が漂う



銅沼の底生動物は捕食者しか見つからない



銅沼に生育するミクリの仲間



川上青沼はアメリカザリガニの密度が高い